



輝け！北っ子！

第2回学校評議員会を開催 ～「開かれた学校づくり」にむけて～

24日、今年度第2回の学校評議員会を開催しました。6月に続き、2回目となった今回は授業参観の他、今年度の学校経営の状況、保護者の皆様にもアンケートに協力いただいた「学校評価」の結果等をお話しし、学校経営についての感想や、次年度に向けてのご意見をいただきました。評議員の皆様（加藤純一様、安部玲子様、鹿野春美様、石川和彦様、吉田隆則様）からは、以下のような感想・ご意見をいただきました。



- 学校が落ち着いているように感じられた。子どもたちが「素直」である。
- ノーチャイム制、VS活動等がしっかり「気づき 考え 実行する子」に結びついている。
- 子どもは自分たちで決めて自分たちでやったことには責任をもつ。これからも子どもたちの主体性を大切にしてほしい。
- 登校班に集まるのが遅い子がいるのが気に掛かる。
- 子どもたちは元気いっぱい。どの学年も成長を感じる。
- コミュニケーションは大きな課題。コロナ禍、マスク着用の影響もあるのではないかな。
- 「自分の日」の取組は自己マネジメント力をつける上で評価できる。子どもによっては、なかなか自分で決められない子もいる。発達段階や個人差に応じた配慮も大切にほしい。
- SNSの利用に課題がある。面と向かって自己表現することに臆病になっている子がいるように思う。子どもたち自身にSNSの功罪について話し合わせてみる等もいいのではないかな。
- 市内の別な場所で会ってもあいさつをしてくれる。あいさつが定着してきている。
- 自己マネジメント、主体的に考え行動する力などは将来にわたって特に大事になる。学校においても取組の継続をお願いしたい。
- 学校評価アンケートでの児童・保護者・教師のずれのある項目については特に慎重に分析し、家庭の協力を含めて対応を考えていって欲しい。

評議員の皆様には、お忙しい中、今年一年、委員を受けていただき本当にありがとうございました。貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度に向けて歩を進めて参ります。今年度をもって学校評議員制度は終了し、次年度からはコミュニティー・スクールとして「学校運営協議会」の中で、学校経営についての意見等をいただく予定です。

ちょっといい話

～あいさつ運動に「助っ人」登場+α～

6年生が、校門前で全校生を迎える「あいさつ運動」は北小の朝を象徴する活動として定着してきました。6年生のあいさつに元気に応える下級生の姿は、見ていてとてもうれしくなります。

先日、そんな6年生の姿を見ていて「やってみよう」と思ったのでしょうか。1年生が「ここであいさつ運動やってみてもいい？」と私に尋ねてきました。もちろんOK。その時からあいさつ運動に小さな助っ人が誕生しました。助っ人の姿をみて、今では同じ1年生や他の学年の子も助っ人として参加してくれています。まさに「+αの行動」。この行動が続くか、続かないかなんて問題ではありません。行動したこと自体に大きな意義があると思うのです。

思うこと・何かを感じることは+αの第一歩であることは間違いありませんが、それを「行動」に結びつけるのはとても大きなハードルがあることは十分承知しています。しかし、行動することでしか、何かを変えることはできませんし、行動することで初めて見えてくる景色もあると思うのです。

